物語1

教材のねらい

1 選定の理由

「竹取物語」の中から「かぐや姫の生ひ立ち」「かぐや姫の歎き」の二教材を学ぶ。「竹取物語」は現存最古の物語文学であり、日本の伝統的な言語文化を理解するうえで重要な作品である。幼い頃から慣れ親しんだ物語の原文を読むことの意義は大きく、また、生徒の多くが物語の概要を知っていて、内容理解の負担が少ない分、古文読解に必要な文法や語彙の理解の定着を円滑に進められる教材である。

「単元の言語活動３　月が詠まれた和歌を鑑賞する」は、「竹取物語」の中でも重要なキーである月が詠まれた和歌を鑑賞し、古来の日本人の月に込めた心情についての解釈を深めることをねらいとしている。

2 指導のねらい

「竹取物語」では、話の内容に合った音読ができるようにする。重要古語や文法事項を確認しながら、流れを追って古文を読解するよう指導したい。また、かぐや姫や翁の行動や心情がどのように表れているのかを読み取り、登場人物の人間性をつかむ。そのうえで、作者が人間界と天上界を対比させながら、悩み多いものの、人間の情愛こそを最上として描いていることに注意して、作品を鑑賞していきたい。

「単元の言語活動３　月が詠まれた和歌を鑑賞する」では、月が詠まれた和歌を鑑賞し、日本人が月に託した心情についての解釈を深めさせたい。

3 単元の目標

目標について、別表「単元の目標一覧」をご確認ください。

4　評価規準

学習指導要領との対応等	評価規準例	〔知識・技能〕							〔思考力・判断力・表現力等〕			
		(1)ア	(1)ウ	(1)エ	(1)オ	(2)イ	(2)ウ	(2)エ	B(1)ア	B(1)イ	B(1)エ	B(1)オ
	言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。	○										
	我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。		○									
	文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。			○								
	掛詞などの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。				○							
	古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。					○						
	古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや、古典特有の表現などについて理解している。						○					
	時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。							○				
	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。								○			
	「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。									○		
	「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。										○	
	「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。											○
	かぐや姫の生ひ立ち	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	かぐや姫の嘆き	○	○	○		○	○	○	○	○	○	
	古文を読むために５	○	○	○			○	○	○			
	古文の窓２					○			○			
	単元の言語活動３	○				○				○	○	○

進んで「竹取物語」に描かれた人物の心情などを読み取り、文語助詞の種類と用法を理解し、学習課題に沿って、本文中から過去や完了の意味を持つ助動詞を探し、本文のどの位置に現れるかを確認して、物語の構造を捉えようとしている。	進んで「竹取物語」に描かれた人物の心情などを読み取り、文語助詞の種類と用法を理解し、学習課題に沿って、かぐや姫が「この国」を去ることを嘆き悲しむ理由を考えようとしている。	進んで「竹取物語」に描かれた人物の心情などを読み取り、古典文学と月の関係について理解し、今までの学習を生かして、月が詠まれた和歌を鑑賞し、昔の人が月に込めた思いについて調べ、発表しようとしている。	〔主体的に学習に取り組む態度〕
○			
	○		
○	○		
		○	
		○	

■言語活動例との関連（【　】は関連する指導要領の言語活動例）

単元の言語活動３　月が詠まれた和歌を鑑賞する【〔思・判・表〕B⑵オ】